

## 1 学校の教育目標

今とこれからを、幸せに学び生活する子どもの育成

## 2 学校の教育目標に対する見解

学校生活における学びが、将来に有機的に生きて働く原動力となることが、その存在意義と考える。個（孤）の、言葉でもって沈思黙考して課題に向き合い、挑戦するたくましさや対話によって協働し、自他尊重する充足感の中で、学びが磨かれ視野が広がる喜びを学校教育で育て味わわせたい。

そのために、子どもを「できる」存在として認め、学校を子どもの自己実現の場にする。

効力感（できる）や有用感（必要とされている）を体現するためには、家庭と連携した健やかで穏やかな生活時間を確保（時間の保障）し、自他尊重によって心が充たされる学校社会（空間の保障）において、よくきき[聞き・聴き・訊き]、探り体験し、学びに没頭し夢中になる幸せや成長を味わう今の連続（場面の保障）が、やがて自らの意思と創意で独自に学び続ける礎になると考える。

- ① 空間の保障—思いやりの空間・自他尊重 ←充たされる心・認め合う穏やかな社会【心】
- ② 場面の保障—よく聞き、探り、楽しむ場面 ←学びに没頭する・夢中になる幸せな場面【知】
- ③ 時間の保障—挑戦できる・自分と向き合える時間 ←健やかで穏やかな生活時間【体】

## 3 目指す子ども像

【教職員評価、児童評価、保護者評価、地域評価 3.3P以上】

ア にこにこ—認め合う子ども（人間関係力を育む空間で）【総合評定3.4】

- ① 優しく穏やかな言葉を使う（音のコントロール）【自己評価3.2】
- ② 立ち止まり「あ・あ・あ」挨拶をする【自己評価3.5】  
（あいてを見て・あたまを下げて・あかるく）
- ③ 思いやりのある行動をする子【自己評価3.2】

イ わくわく—学び合う子ども（自己と他者と対話する場面で）【総合評定3.3】

- ① よくきき、探り、課題に向き合う【自己評価3.3】
- ② 言葉で考え、言葉で伝える（語彙の獲得）【自己評価3.5】
- ③ 本を読む【自己評価3.2】

ウ もりもり—鍛え合う子ども（自分に向き合い、挑戦を可能にする時間で）【総合評定3.4】

- ① 自分に向き合い、へこたれない・諦めない【自己評価3.5】
- ② 仕事や掃除に向き合い、達成する【自己評価3.2】
- ③ 安全行動、歩いて登校、よく運動【自己評価3.6】

## 4 目指す教師像

目指す教師像【教職員評価 3.2P以上】

自ら求め、自ら決め出し、自ら動く教師（長野県伊那小学校「子ども観」から借用）

- ポジティブ発想をもち、自他尊重し、自律的な言動が取れる教師
  - ・子どもの可能性を探求し、仲間に感謝し、個による省察を行き来する
- 子どもの学びのために、傾聴と協働ができる教師
  - ・教育専門職としての人権感覚を磨く
  - ・子どもの「できた・わかった・考えた」に真摯に向き合い自己研鑽する
- 「時間」と「情報」を大切にする教師
  - ・開始時刻、終了時刻を守る
  - ・子どもに関する情報、教育に有効な情報を収集・共有・発信する

## 5 目指す学校像

目指す学校像【教職員評価 3.2P 以上】

人的・物的・自然的・社会的環境を整える学校

- ア 子どもが明るく楽しく、活躍できる学校
  - ・職員と子どもが豊かな言語環境と信頼で繋がり、温かな気持ちをまとう空間
  - ・危機管理の徹底と、いじめ・不登校、問題行動の早期発見・早期解決を図る意識
- イ 活気があって美しい学校
  - ・音のコントロールができ、発言や挨拶、遊びや歩行に安心感と活気がある学校
  - ・学びの場の清掃や整頓、シンプル・クリア・意図的な掲示物で、生活意欲や学習意欲が喚起される学校
- ウ 保護者・地域に信頼され、愛される学校
  - ・社会に開かれた教育課程において、地域や家庭と連携・協議し、地域の環境やよさを生かしたり貢献したりする、学びの実践がある学校
  - ・生徒支援・指導の考えを家庭と共有、家庭への寄り添いと協働がある学校

## 6 本年度の教育課題と経営課題

### ① 教育課題

- ア 対話と社会化された行動によって自己有用感を味わい、多様な人間関係力を育む
- イ 「よくきき、探り、楽しむ」学びに没頭する幸せを味わう
- ウ 健康意識をもち、元気に過ごす自己管理能力を育む

### ② 経営課題

- ア 教職員
  - ・幸せな学びのための、実践的指導力の一層の向上
  - ・課題予防的な生徒指導の充実と全校的取組の共通実践
- イ 組織
  - ・リーダーシップとチーム意識で、分掌の協働化・機能化・活性化
  - ・子どもに向き合う時間の確保、質の改善
  - ・子どもと保護者に還元できる情報収集・情報共有・情報発信という働き方
- ウ 家庭・地域
  - ・家庭・地域との協働による健全な生活習慣の獲得と発達支援的生徒指導の啓発と共有

## 7 本年度の重点目標

**学び合い、認め合い、鍛え合い、自己有用感を味わう子どもの育成**  
～対話を通じた協働的な学びの場の推進～

※自己有用感：自分と他者（集団や社会）との関係を自他ともに肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価。「だれかに必要とされているという満足感」

※自己肯定感（自分は価値がある存在）とは、自己効力感（うまくできる・可能性がある）や自己有用感（自分は誰かに必要とされている・認められている）の、双方の高まりによって育っていくもの

## 8 重点目標達成のための6つの方策

- 1 対話の習慣化プロジェクト「にこにこ」「わくわく」「もりもり」
- 2 子ども自身が課題を見出し、目標に迫る「舞っ子ミーティング」
- 3 「舞っ子ミーティング（特別活動）」「舞っ子の時間（総合）」と「教科や単元の連携」の推進（カリキュラム・マネジメント）  
（行事の精選と統合・焦点化 朝活を含む特別活動—総合—教科—道徳の連動）
- 4 教職員の指導力量と社会性、人権感覚を磨くOJT
- 5 分掌組織の円滑な運営と情報共有
- 6 子どもと保護者に還元できる働き方改革

## 9 具体的な取組み

### 1 対話の習慣化プロジェクト【全校的に取り組む教育活動】

#### 「にこにこ」育成プロジェクト(人間関係力を育む空間) …認め合い

～荒れを生まない特別活動～

- ① 「朝の会」「帰りの会」の共通実践…人権感覚、学習規律の涵養、自己有用感を育む「朝特」(聞き合い) ※要研修
- ② 「舞っ子ミーティング」…役に立てる・喜んでもらえる「学級会」「児童会活動」対話と体験の、自治活動による自己有用感の獲得
- ③ 音のコントロールや「舞っ子しぐさ」  
※内容を学級活動⇔代表委員会で熟議(挨拶・姿勢・足裏歩行・黙働掃除・切り替え)  
※わかりやすい例や指標—ほめる:あいさつ **あ**相手を見て **あ**頭をさげて **あ**挨拶  
8つのあいさつレベル

#### 「わくわく」育成プロジェクト(自分や他者と対話する場面) …学び合い

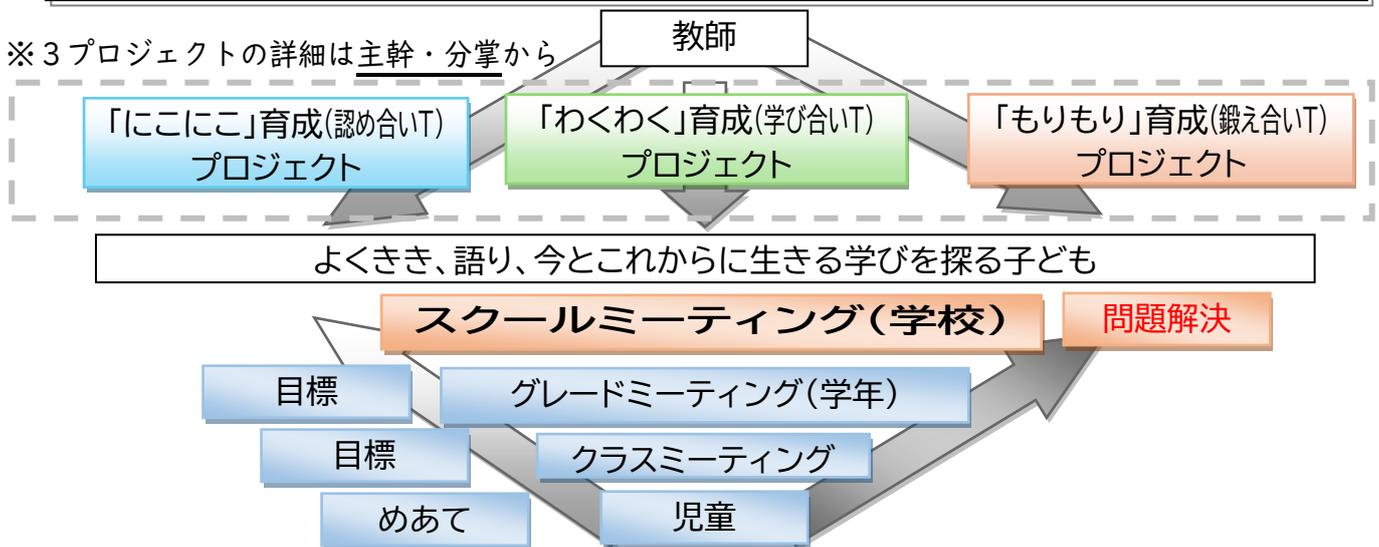
- ④ 「朝活」(朝の活動)の目的的な実践—基礎・基本の徹底
- ⑤ 読書活動の推進(週2回、1回裁量)  
—朝読(あさどく)対話(語彙を楽しみ、語彙が広がり、語彙に作用する) ※要研修
- ⑥ よくきき、探り、課題に向き合う体験的な学び
- ⑦ 「言葉」で考え自分を育てる環境づくり

#### 「もりもり」育成プロジェクト(自分に向き合い、挑戦できる時間の創出) …鍛え合い

- ⑧ 「歩いて登校 遅刻0」、睡眠とテクノロジーのコントロール(自己管理能力)
- ⑨ 黙働掃除、歩行の指導の徹底
- ⑩ 鍛える学校行事(児童発進・児童発信)

### 2 子ども自身が課題を見出し目標に迫る学級会「舞っ子ミーティング」

※3プロジェクトの詳細は主幹・分掌から



※児童が目標に迫る「舞っ子ミーティング」

- ① 学期の始めに「きく・考える・話す」(対話)のアンケートを取り「自分のめあて」を作成。それらを出し合い、クラスの目標を立てる。
- ② 学年でミーティングを行い、クラスの目標から「きく・考える・話す」(対話)のグレード(学年)目標を立てる。
- ③ 学期間に、「きく・考える・話す」(対話)についての自分のめあての評価をする。それをもとにクラスミーティングで、クラスの「きく・考える・話す」(対話)の目標達成を話し合う。
- ④ グレードミーティングで学年目標達成と今後の重点について話し合う。(夏休み前・冬休み前 ※検討)
- ⑤ スクールミーティング(学級活動・運営委員会)では、学級・学校の課題や音のコントロール、行事に向けた課題・問題等を対話し、解決の方法を提案、発信、発進する。※運営委員に提出

### 3 「舞っ子ミーティング」(特活)「舞っ子の時間」(総合)「教科や単元の連携」の推進(カリキュラムマネジメント)

- ① 総合的な学習の時間「舞っ子の時間」70時間と教科との関連を意識し学年の系統を図る。
- ② 特別活動の時間「舞っ子(スクール)ミーティング」を週〇コマ年間〇時間設定する。

#### 日常的な特別活動の指導内容の吟味と開発

- (例) 「にこにこ」アップ……………「朝の会」の「朝特」(聞き合い) SST  
 「帰りの会」の“ほめほめタイム”(音のコントロールやまいっこしぐさ)  
 「わくわく」アップ……………舞っ子(スクール)ミーティングで対話の習慣化  
 朝読(あさどく)対話で語彙・表現の広がり  
 基礎・基本の漢字・計算  
 「もりもり」アップ……………「朝の会」や中休みの腰骨タイム “歩いて登校・遅刻0”  
 学習規律トレーニング 歩行 自立活動 防災・減災行動
- ③ 教科と単元を「育てたい力・題材・活動」でつなぐ(「何のために」「何を」「どのように」)

	4月	5月	6月	…	11月	
国語	単元1	単元2			単元3	国語 自己紹介をしよう (話す) 特活 自己紹介カードに まとめる
理科			単元2		単元3	
社会		単元1			単元3	
…		単元1				
道徳	単元1					
総合		単元1	単元2		単元3	
特別活動	単元1	単元2			単元3	

#### 特別活動や総合的な学習の時間を活用した、社会に開かれた教育課程の工夫

【案・例】(仮称)「今、私たちにできること」舞小のよさの実感と発信

- ・1年生生活とSDGS:「さつまも生活習慣と地域のつながり」校区探検
- ・1年生・4年生特別活動:交通安全協会と協働する「交通安全運動」の実施
- ・2年生生活とSDGS:給食センターを活用した食育
- ・3年生道徳とSDGS:人権擁護委員の支援による「人権の花運動」の実施
- ・3年生理科とSDGS:地域の農家『お喜楽ガーデン』支援による野菜と動物
- ・4年生総合とSDGS:古賀市環境課支援によるグリーンカーテンの実施
- ・5年生総合とSDGS:『ぐりんぐりん古賀』支援による、ビオトープの保全活動
- ・6年生国語・道徳とSDGS:「(仮)ナガサキ平和への祈り」
- ・全学年のSDGS:LGBTQに関する課題、ジェンダー平等
- ・全学年:消防署や日本防災士会と協働する防災・減災教育の実施

### 4 教職員の指導力量向上と社会性、人権感覚を磨くOJT

- ① 子どもの実態から、自身の指導内容を省察する態勢づくり
  - ・教師の指導言や目的意識(=ねらい)をもった指導  
振り回される対応(指導のタイミングを逸し、対応に追われること)をしない
  - ・教師が人権感覚を磨き、児童の社会的な自立を目指した言語環境をつくろう  
大人、として扱う児童の呼称、「です・ます」を使っても築ける親和的な関係
- ② 一般研修、主題研究の能動的な参加
  - ・校内研修の対話の成果をもとに、令和の日本型教育の「職員室」を追究しよう
  - ・学校の「全体最適」に向かって、親和性と自律性を向上させよう
- ③ 職務上の研修や面談や終礼、学年会を活用したOJT、不祥事防止対策
  - ・教科等研修会、教育センター研修、教育論文等への奨励、自主研修の充実
  - ・一般研修やAUDITを活用した面談の実施と管理職による指導
  - ・風通しのよい職場環境づくりを推進しよう

# 「令和6年度舞の里小学校 働き方改革」

## 【舞の里小学校働き方改革の目的】

教材研究や自己研鑽、環境整備等の時間を生み出すとともに、教職員の心身の健康と家庭生活の安定を図ることで、教育活動の充実と豊かな子どもの学びに還元していくことを目的とする。

## 【内容】

### 1 全職員で重点目標達成に向かう

**学び合い、認め合い、鍛え合い、自己有用感を味わう子どもの育成  
～対話を通じた協働的な学びの場の推進～**

- 常に省察・・・教員の言動も「学びの場」の環境の一部
- 自己有用感を味わえる学年・学級経営・・・子どもの心を荒らさない
- 揃えるべき所を揃える・・・自分のクラスだけは・・・？情報を自分で閉じる？自身で全校生徒指導を請け負う覚悟でも？ベースがあっての個性

### 2 時間と情報の管理

- 時制を工夫し、放課後時間の捻出
- 適切な情報収集・情報共有・情報発信という働き方  
→子どもへ還元、保護者対応へ還元、授業改善に還元、  
職員の心身の健康と安全に還元、円滑な生徒指導と健全な学校運営に還元

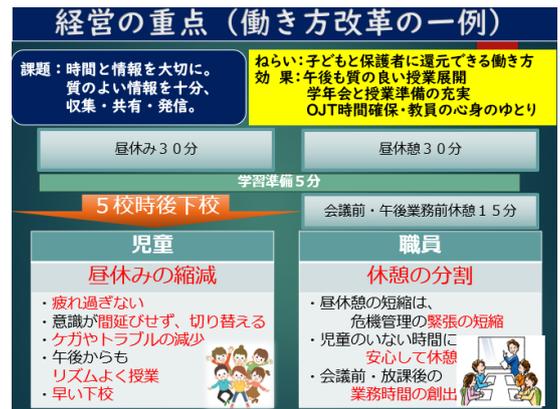
- 週時制の調整(基本的に、週5時間を週4日設定)
- 昼休み30分、昼休憩30分+15分
- 勤務時間8時20分～16時50分
- 会議の整理と校務分掌の協働化・機能化・活性化
- 担当の学年・学級の戸締まりは責任をもって
- 定時退校日・学校閉庁時刻の徹底(19時退校)
- 超過勤務時間：月45時間以内の徹底  
(R4：65時間以内、R5：55時間以内、R6：45時間以内)
- ※一日2時間超過(7:50～18:20勤務)で40時間
- 勤務間インターバル 11時間以上を目指そう  
「本日の作業は16:30に終わろう」

(会議も業務も全て終わろう→明日の見通し→書類の整理→ゴミ捨て・掃除・鍵締め→出勤印大丈夫か?)  
「朝は8:00に開始しよう」(其々が決める。慌てずしっかりとした仕事開始の状態)

【リスクなインターバル例】

19:00退勤→8:00開始=勤務間インターバル11時間

これ未満はリスク



### 3 教育課程と行事の工夫

「カリキュラムマネジメント」による焦点化と授業時数の削減(学校経営要綱参照)と、行事の「縮小、削減、合併」

(例) □6月個人懇談

- ・早期に保護者と面識ができ、親子関係の把握ができる
- ・7月下旬午前中授業、午後に研修、7月26日～8月19日の夏季休業中研修なし
- 家庭教育頑張り週間のカードチェック等(例：なくす、変える)
  - ・目的は「チェック」ではない
  - ・時間と労力と紙の無駄
  - ・縦と横(異学年・同学年)に子ども同士をつなぎ情報交換、モチベーションアップ

#### 4 意識を変える

- 情報の管理・・・「情報伝達遅滞」が危機管理上、最悪な事態を招く
- ものの管理・・・鍵や資料等をなくさない（教頭は、管理場所を整備・徹底）
- 場所の管理・・・整理整頓をして、作業場所を片付ける（ゆとりスペースの確保）
- 時間の管理・・・見通しをもつ（期限や期間の適切管理）、仕事の優先順位を決める、年休を計画的に取得する
- ICTの活用・・・教材開発をしたデータを残す共有フォルダを作成  
他の先生方の参考にもなり、さらにより教材へ改善・開発  
教務だよりもスプレッドシート化・・・先まで確認  
授業ノートを「まとめ用」として、日常的には jam board を活用  
週案は「ひまわり先生」に自動入力の後、足りないところは手打ち  
全児童に知らせたいものは全児童クラスルームを作って知らせる  
→紙紛失等の対応無し
- 英語専科教員による高学年外国語科授業の実施
- 学年内交換授業、7年部活用による一部教科担任制の実施
- 外部GTの活用・・・水泳授業の教育効果の例から、本校教師しかできない授業、指導等

#### 5 校務分掌組織の機能化と外部機関との連携

- 対話の習慣化プロジェクト（3T）と、特別活動「舞っ子ミーティング」（代表委員会・主幹教諭）の機能化と連動化・・・3育成プロジェクトの連動（TLM）※主幹教諭
- 教頭、主幹と3Tが先んじて協議し、効率化と焦点化を図り提案する態勢（ミニ会議）
- 教頭は、分掌の仕事の偏りや重複を見つけて解消する
- ICT担当と教頭による、各調査の効率化
- 各々、情報をオープンにして関係機関と上手く連携
- 三者、舞の里小学校教育推進協議会やPTCAとの協働推進
  - ・地域がパートナーとして、子どもの成長（教育課程と登下校の安全）を支えるしくみ
  - ・協働する「登下校」（※検討）「引き渡し訓練」（※検討）
  - ・PTCAの見守りシステム（※課題）

#### 6 近接学年OJT

- 学年・近接学年でOJTを行い、学級経営や授業作り、生徒支援等の情報共有や指導・支援を行う

#### 7 行事等の取組後の、迅速な評価・改善サイクル

- 評価を即時集めて、改善・計画まで立てて、次年度に反映させる
- すべての行事の目的を、3育成プロジェクトのねらいに照らす。  
（学校経営要綱9ー1「対話の習慣化プロジェクト」の3つのねらい）

#### 【ワークライフバランス】

平成19年12月に内閣府が「仕事と生活の調和憲章」と「仕事と生活の調和推進のための行動指針」を制定。これらのガイドラインにより、企業には従業員のワークライフバランスを整えることが義務付け。

平成31年4月から「働き方改革関連法」が順次施行。

#### 【考え方】

単純に「仕事を減らして楽にする」ということではなく、また「仕事のために生活を犠牲にする」という考え方も論外。仕事と生活がともに充実し、相乗効果を生み出すことが理想的なワークライフバランスをめざす。

削る・時短だけがねらいではなく、教職員として時間をかけたこと・かけるべきことのために時間を生み出しましょう。